



桜井谷小学校だより

令和5年(2023年)7月3日

7月号

7月です。1学期のまとめをしましょう。



7月の授業日数は、13日です。7月20日(木)が終業式です。1学期を振り返って、子どもたちはどんなことを考えるのでしょうか。どんなところを頑張り成長したなあと実感してくれるのでしょうか。今年度より通知表の所見は3学期のみとなります。個人懇談会の時間を確保しお子様のようすを伝えることといたしました。日々の学習の取組みの中でよい面を伸ばして、一人ひとりの子どもたちが自分に自信を持てるようにと考えています。学校教育目標「子どもが輝き 進んで学び ともに生きる みんなの学校」で1学期を振り返ってみたいと思います。子どもが主語になっていたでしょうか。進んで学びたいという気持ちを持てたでしょうか。助け合い支え合いともに学校生活が送れたでしょうか。学校がいやだという思いを聞くこともありました…みんなの学校になっていたでしょうか。課題や反省を踏まえ、子どもたちとの信頼関係を深め、どの子の力も引き出していきたいと思います。

桜井谷ビオトープ『さくらいだに生き物の里「まなビオ」』

創立150周年記念の桜井谷ビオトープです。大阪大学のビオトープから分けていただいた「オオガハス」の花が7月3日(月)に咲きました。つぼみの間は、トンボが翅を休めに来たり、まわりの葉っぱと一緒に風にゆられて、そよそよと動いたりしていました。いつひらくかな〜と楽しみにしていたのですが、今日、午前7時にビオトープに行ってみると、すでに開花していました。

ハスは早朝に開くので、人知れず開いていたのだなあ。このハスを縄文時代の人も見っていたのだなあと感動でした。

今日の全校朝会で「古代ハス」と、なぜ言われるのかをお話しましたのでお子さんから聞いてみてくださいね。



桜井谷の歴史を知ろう！

校内にある「中井山3号墳」について

桜井谷小学校の中に遺跡があります。6世紀から7世紀の初めにつくられた円墳(直径16m)で、横穴式石室(幅1.2m長さ6.4m)に珍しい焼き物の棺(陶棺)が置かれていたそうです。桜井谷で須恵器づくりをひきいた豪族のお墓だと考えられています。昭和41年(1966年)8月29日に桜井谷小学校に移設されました。

桜井谷地区は1400年前の古墳時代に須恵器という焼き物がたくさん焼かれていました。須恵器工人のお墓が永楽荘と本町に小さな古墳が10基くらいあったようです。陶棺はその須恵器工人のリーダーのお墓だと考えられています。

桜井谷で焼かれた須恵器は、おそらく千里川などの近くの川を使って、ふもとのムラ(本町遺跡・新免遺跡)まで運ばれたのではないかと思います。

須恵器づくりは古墳時代の中ごろ(1550年前)にはじまり、奈良時代(1300年前)ごろまで続いたそうです。



(豊中市立郷土博物館 前館長の清水さん作成資料より 写真は、6月17日に桜井谷こども教室で実施した「桜井谷小学校の遺跡を学ぼう!」のようすです。移設された石室の中に入り、清水前館長さんよりお話を伺いました。)



学校ホームページ
はこちらから

